

👉 2006年11月12日(日曜日) 四国新聞「一日一言」

金刀比羅宮 (琴平町)の  
ある象頭山  
は、かつて修  
験の山でもあ  
った。例大祭  
は十月九日から同十一日  
まで▲お祭りが終わる  
と、お頭人さんの会食や  
神事などに使った膳具類  
を観音堂の縁側から掃  
き、箸は石の下や木の根  
元に埋めておく。これら  
の箸は守護神が、はるか  
阿波の箸倉(蔵)山まで  
運んで行った、と言い伝  
えている▲民俗学者の武  
田明さんは「十一日の暗  
闇の夜に箸倉山に飛び去  
って行く神霊の姿をのち  
には天狗と見立てていた  
のかもわからない」と説  
明。いまも箸蔵神社を「こ  
んびりさん」の奥の院と  
する信仰がある。箸蔵の  
奥社にも、天狗の面を祭  
っている▲昔から日本人  
にとって、生命維持の食  
事に、箸は欠かせないも  
のだった。「古事記」に  
も記述があるように、箸  
は人の暮らしが存在する



ことを教えてくれる。箸  
をたどると、人間にたど  
り着く▲だが、いまや使  
い捨ての割り箸の多用は  
自然破壊を招く、として  
「二本一?マイ箸協会」  
(寺山喜博会長)は自分  
の箸持参での飲食を、と  
呼びかけてきた。昨年十  
月には、自分の箸を持参  
すると、割引など特典が  
受けられる飲食店を網羅  
した「マイ箸マップ」を  
創刊▲大部分が輸入だと  
いう割り箸の大量消費  
は、相手国の森林資源を  
も食いつづす。割り箸を  
効果的に回収できると、  
紙としてのリサイクルも  
進む。回協会ではオリジ  
ナルな携帯箸を持つこと  
も提案している▲寺山会  
長は「マップ」創刊一周  
年を記念して、協力店を  
マラソンで巡り感謝を表  
明。「箸は一本也、箸は  
二本也。衆寡敵せずと  
知るべし」とは齋藤緑雨  
の言葉である。別の意味  
で、筆よりも、箸の実行  
に、この言葉を贈りたい。



## イベント運営メンバーより 一言メッセージ

苦悩の果て、長い道のりの先 熱い男の背中を見ました。 ちやる

一人一人の優しい心に感謝致します。ありがとうございました！ ユカリ

てらきちさんの思いの強さに感激しました。マイ箸バンザイ！ ぎっちゃん

36時間の中の色んな感動、ドラマ！いい経験でした。ありがとう！ めぐま

いろいろあったけど、「みんな楽しかったから」すべてよしです お疲れ様でした！ たくりん

寺吉の志に皆が協力し、寺吉の頑張りに皆が一つになった！ありがとう！ ヒロパパ

とても大きな感動と温もりがありました！みんなへ有り難う あす犬

111kmを走って繋ぐという偉業を成し遂げ、マイ箸時代の幕開けを感じた。 ホリケン

ご協力頂いたお店の方々と、より深いつながりを感じることが出来ました。 ゆっこ

バカと言われてもやり遂げた、その勇気と行動力にオソレイリマシタ！ 尚吉。

たくさんのお出会いと感動を提供していただきありがとうございます！感謝しています。 しおり

晴れ、曇、雨と雷、ともかくみんな無事でなによりお疲れさま！ ソーリ

今回は、大海の一滴にすぎませんが、必ずこのブームは全国に広がります。  
てらきち君のおかげで皆がバイオニアです。感動をありがとう！ イナチャン

笑いあり、涙ありの111kmでした。また来年もあればいいね！ありがとう。 光樹

これからも、美しい地球を守っていく活動を楽しんでやってください。 母

とにかくよくやった！てらきちが動いたおかげでみんながつながった。 ひろりん

世の中を変えていったのは皆、意地を張り通した人達でした。(単に意地っ張りなのとは違います)  
このイベントで、てらきち君は意地を張り通すことが出来る人であることを証明しました。 青木